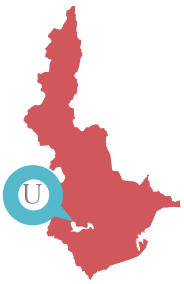


宇津ノ谷あるき

静岡市の街中からすぐ西となり、
旧東海道沿いに軒を並べる集落は
今も面影を伝えていると聞きました。

宇津ノ谷地区美しいまちづくり協議会　静岡市都市局建築部建築総務課

いにしえからの時間に触れる、宇津ノ谷

静岡のまち中から一歩足を踏み入れた場所にある宇津ノ谷。
脈々と流れる時間の中で、豊かな自然と景観が残り、それらを支える人々の営みが息づいています。

1 宇津ノ谷集落

丸子宿と岡部宿の間に位置し、往来する旅人が休憩した集落で、当時の立場茶屋であったお羽織屋や歴史的なまち並みが残っています。

2 蔦の細道

古代から中世まで利用された道のことで、「宇津の山越え」として、平安時代から江戸時代にかけての歌や物語に頻繁に登場しています。

3 旧東海道

天正年間、豊臣秀吉が小田原征伐の際に作ったと言われ、江戸時代には参勤交代の大名行列も行き交い大正時代まで多くの旅人が往来しました。

4 御羽織屋

この家に立ち寄った豊臣秀吉に主人忠左ヱ門が馬の沓を差し出したといいます。その返礼として拝領した陣羽織が石川家に大切に保管されています。

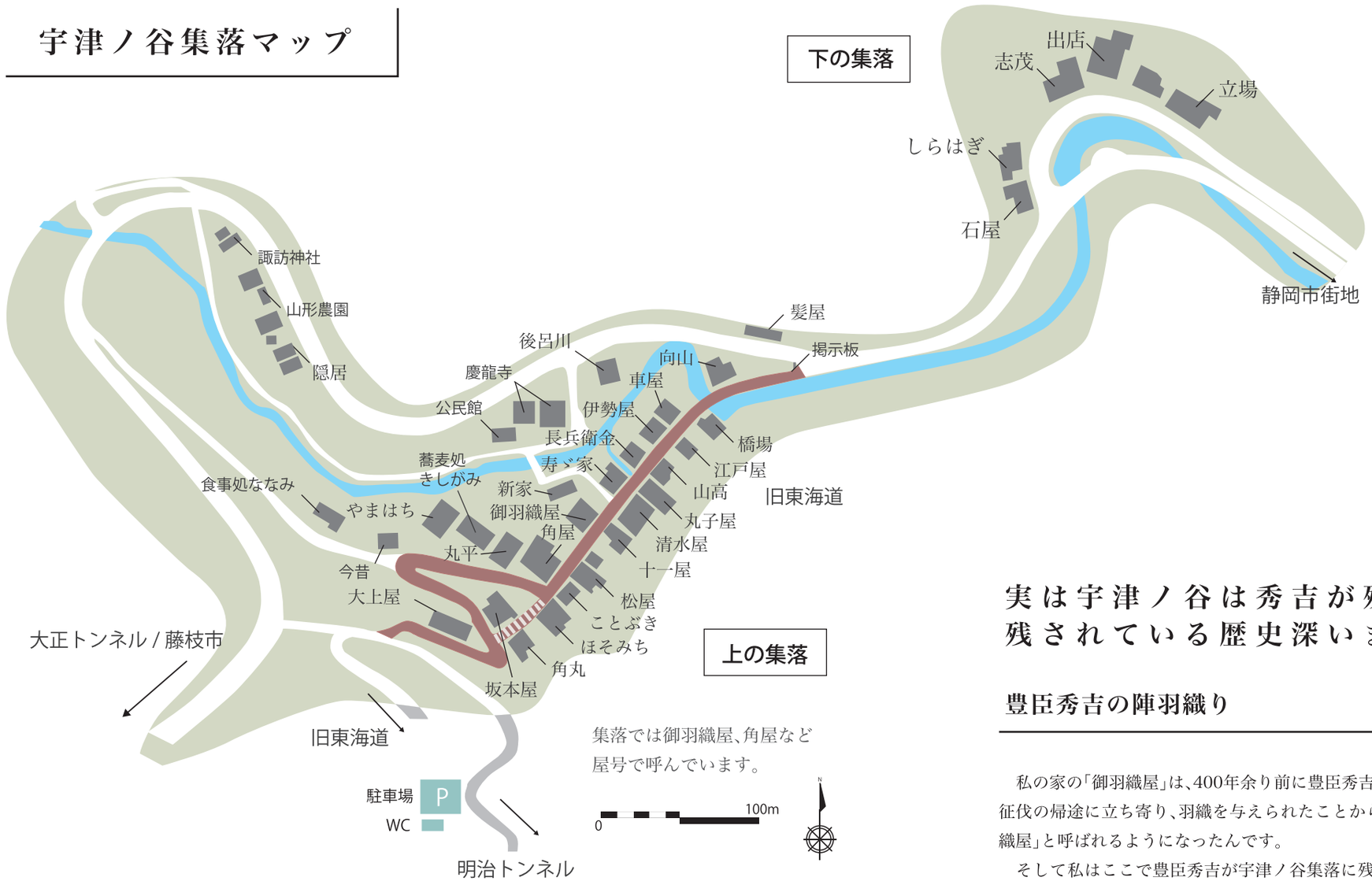
5 明治トンネル

明治９(1876)年に開通したものの、火災により不通になり、その後明治37(1904)年に完成した赤レンガのトンネルで、国の登録有形文化財です。宇津ノ谷峠には藤枝市岡部町との間に、明治、大正、昭和、平成の4つのトンネルがあります。

6 慶龍寺

室町時代から伝わる魔除けの「十団子」と延命地蔵で有名。8月23,24日は縁日で賑わいます。

宇津ノ谷集落マップ



▲旧東海道から見た御羽織屋

▲御羽織屋の中の様子

語り部たちが伝える宇津ノ谷

一度訪れただけでは気づけない、暮らしてみてわかること。

この土地に住み続けている人々が伝えたい魅力が宇津ノ谷にはあります。

そんな「宇津ノ谷で暮らしていて良かった」を住民の皆さんに語っていただきました。

実は宇津ノ谷は秀吉が残した逸話が残されている歴史深いまちなんですよ。

屋号：御羽織屋　石川ときさん

豊臣秀吉の陣羽織り

私の家の「御羽織屋」は、400年余り前に豊臣秀吉が北条征伐の帰途に立ち寄り、羽織を与えられたことから「御羽織屋」と呼ばれるようになったんです。

そして私はここで豊臣秀吉が宇津ノ谷集落に残した逸話を訪れた人達に伝えています。

小田原の北条氏征伐のため、東海道を下った秀吉は、この地に差し掛かり、石川家の軒下につるしてあった馬の沓に目をとめて使い古した自分の沓と取り替えようとしました。ところが、主人は三脚分しか差し出さなかったので、「馬の脚は４本なのにどういうことだ」と尋ねました。すると「残る一脚分でお戦のご勝利祈るつもりでございます。」と答えました。秀吉が名前を尋ねると忠左ヱ門と答えました。そして秀吉は山の名前を忠左ヱ門に尋ねると、あれは勝山、その大木は、勝の木だと答えます。すると秀吉は「勝山に勝の木か、それはめでたい。戦には必ず勝って帰るぞ」と、機嫌良く出発していったそうです。それから半年間忠左ヱ門は、毎日秀吉公の戦の勝利を祈りました。郷民の機知に秀吉は喜び、自ら着用していた陣羽織を与えました。この功により、この石川家は名字、帯刀を許され屋号を「御羽織屋」としたんです。また10年後に徳川家康が呉須の茶碗を贈っています。

その後、峠を通る諸大名が、この羽織と茶碗にあやかりたいと言ってたくさん訪れたそうです。15代将軍徳川慶喜も「蔦の細道」の銘が入った赤絵の茶碗を贈りました。

なかには大阪から本物を見に来てくれる方もいらっしゃるんです。

私は、藤枝から宇津ノ谷に嫁いできました。お店は少ないですがここの静かで落ち着いた空気が気に入っています。これからも、このまちが歴史深いまちであるということを皆さんに知ってもらいたいです。

▲ 旧東海道

▲ 味覚祭りの様子

▲ 下の集落付近の清流の様子

▲集落の間を流れる清流

昔ながらの「屋号」の呼び方が残っているんだよ。

宇津ノ谷のまち並み

実は昔、鉄道関係の仕事をしてたから宇津ノ谷の外を沢山見てたんだよ。東京から静岡までいろいろ降りてみたけど、やっぱり宇津ノ谷が一番安心するんだよね。気軽というか。自然もあって昔ながらのまち並みが残ってて、人も温かくて…。都会の人から見れば「なんにもない」って言われちゃうのかもしれないけど、何にもないからこその空気があるんだ。

例えば、各家にある煙突。あれはお風呂をまだ薪で沸かしている家についてて。昔はどこの家でもそうだったなあ、懐かしい。

そして宇津ノ谷といえば『屋号』だね。これは本当に昔から各家にある呼び名で、今でもこれで呼び合ってるんだ。むしろ名前じゃ呼ばれずに屋号で呼ばれるよ。「おい！髪屋！！」ってね。こんな風に昔ながらの様子が少しずつ残っているんだよ。

お袋の味に癒される絶品のとろろ汁。

味覚祭り

４月と 11 月に御羽織屋さんの隣の空き地で「味覚祭り」っていうお祭りをやるんだよ。峠を越えた先にある藤枝市と合同で開催するから、なかなか盛況でね。4 月に行われる味覚祭りでは、たけのこが美味しいし、11 月では生の山芋をすって販売するかな。そしてなんといっても「とろろ汁！！」とろろ汁はどうしても丸子宿が有名だけど、味も濃いし粘り気が強い宇津ノ谷のとろろ汁のほうがオススメだよ！また、各家の畑からとれた野菜や、それらの材料を利用した奥様がたの料理は絶品。栗おこわや赤飯、椎茸ご飯など、100% 手作りのお袋の味に癒されること間違い無し！このお祭りは誰でも参加できるので、ぜひ自由に参加して欲しいな！

屋号：髪屋　森 義泰 さん

自然と生き物が豊かな川で、初夏にはホタルが見られるんですよ。子供の頃は友達とよく川遊びをしていたなぁ。

まち並みを流れる清流

思い出の場所といえば、宇津ノ谷地区に流れる川ですかね。すぐそこの、本当に家の間を流れる川です。ずっと昔からあって、小さい頃は川でよく遊びました。安倍川と下の方で繋がってるので、カジカとか鮎が季節になるとよく登って来るんですよ。昔はウナギもいて、良く採っていました。ミミズを仕込んだ仕掛けを川に沈めておいて、次の日の朝にそっと覗きに行くと、たまーに掛かってるんです。それを親父のところに持って行ってさばいてもらって食べたものです。美味しかったなあ。つるんでた奴らとは場所の取り合いになってました。

今でもあの川は綺麗だから、十分川遊びが楽しめますよ。家の間に流れてるので人目もあるし、浅いから安全ですし。実はあそこ、初夏になるとホタルが飛び始めるんですよ。暑すぎちゃダメだから、見頃は６月ごろですかね。川の横は道路だから、ホタルを見ながら散歩できます。

屋号：志茂(しも)　鈴木 祥元 さん

肌で触れる、宇津ノ谷の恵み図鑑

宇津ノ谷を歩くと、多くの植物や動物に出会います。
ここでは、そのほんの一部を紹介します。
ぜひ、歩きながら探してみてください。

クズ

林のへりなどに生える多年草です。７月ごろに沢山の紅紫色の花が集まって咲きます。昔から「秋の七草」として親しまれています。

ウバユリ

花が咲く頃に葉が落ちることから、歯の無い「姥」に例えて名付けられました。胎座に甘みがあることから山遊びをする子供のおやつにもなったとか。

サザンカ

江戸時代から庭木として愛されてきている、日本人には馴染みの深い花木です。花色は桃・紅・白などがあり、咲き方も一重咲き・半八重咲きラッパ咲きなど様々です。

テイカカズラ

藤原定家が名前の由来の低木です。式子内親王を愛した定家が死後も彼女を忘れられず、植物に生まれ変わり墓に寄り添ったという伝説が残されています。

アケビ

秋に熟す果肉は大変甘く、山の子供の絶好のおやつ。果実は乳白色のゼリー状で甘味があり、黒い小さな種がたくさん入っているんです。

ミズヒキ

上から見ると赤、下から見ると白に見え、その様子が水引に似ていることからこの名が名付けられました。

オオルリ

美しい青色の体とさえずりで知られる鳥です。青色なのはオスだけで、メスは茶褐色をしています。

ヤマガラ

頭とのどは黒く腹は黄褐色をしています。足を使ってかたい木の実などをはさんで叩き、割って食べます。

カワセミ

翡翠のような鮮やかな体色から飛ぶ宝石ともいわれます。巣は土崖に横穴を掘って造ります。

ウグイス

日本人にいちばん親しまれている鳥といえるでしょう。うぐいす色といわれる色彩ですが、実際のウグイスの羽色は緑よりも暗緑茶色です。

セグロセキレイ

黒い顔に白い眉のような模様の持ち主。水辺に生息する鳥で、飛び立つときに「ジュピッ」と濁った声で鳴きます。

メジロ

目の周りの白い縁取りが目立ち、英語でも「white-eye」と呼ばれます。体が大変小さく花の蜜を好むため「はなすい」「はなつゆ」とも呼ばれます。

ヒヨドリ

平安時代は貴族の間でよく飼われており、可愛がられていた鳥です。果肉や花の蜜を食べ、甲高い声が特徴です。

鳥媒花

梅、山茶花などは蜜を吸いに来たヒヨドリやメジロに花粉を運んでもらうことで受粉します。鳥が媒体となって受粉のなかだちをすることから、鳥媒花と呼ばれます。

鳥媒花には赤い花が多く、鳥が止まるために硬くなっているものがほとんどです。虫を寄せる花よりも香りが薄いのは、鳥の嗅覚が弱いからです。

蔦の細道のつる植物

蔦の細道はその名の通り、多くのつる植物に出会います。一人で立ち上がることのできないつる植物は、他の植物などを支えに巻きついて育ちます。

巻き付き方にも種類があり、左巻き、右巻きのようにくるくると巻き付くものや、ぺたりとくっつく付着根と呼ばれる根を張って登るものもいます。

歴史から見る宇津ノ谷

宇津ノ谷峠は東海道の難所でした。現在、ここには深い山をさまざまなルートで貫く6本の道があります。古代〜中世の「蔦の細道」、近世の「東海道」、そして明治、大正、昭和、平成の各トンネルです。「蔦の細道」は『伊勢物語』に因んで名付けられた山道で、江戸時代の芸術の源泉となった場所でした。「東海道」は豊臣秀吉が開いたルートといわれ、集落の中には、その故事を伝える「御羽織屋」があります。明治トンネルの上を通っている「東海道」は、国の史跡に指定されています。

俵屋宗達筆《蔦の細道図屏風》
相国寺蔵
江戸前期に描かれたこの屏風には蔦の葉が描かれており、この絵をもとに、右の深江芦舟の屏風も描かれました。

深江芦舟筆《蔦の細道図屏風》
画像提供：東京国立博物館

蔦の細道

秀吉の陣羽織

明治トンネル

『伊勢物語』から展開した文学・美術

行き行きて駿河の国にいたりぬ。宇津の山にいたりて、わが入らむとする道はいと暗う細きに、つたかえでは茂り、物心ぼそく、すずろなるめを見ることと思ふに、修行者あひたり。「かかる道はいかでかいまする」といふを見れば、見し人なりけり。京に、その人の御もとにとて、文書きてつく。
駿河なる　宇つの山辺の　うつつにも　夢にも人に逢はぬなりけり

これは平安時代の歌物語『伊勢物語』東下りの一節です。和歌は在原業平が詠んだもので、新古今集にも収載されています。東国に下る男が、蔦、楓の茂る深い山道で偶然に出会った知人に託して都の女に贈った歌でした。「うつのやま」は歌枕として知られることになり、「蔦の細道」の名もここから生まれました。この物語をもとにして、多くの「うつのやま」の和歌が詠まれ、さらに絵画や歌舞伎の題材ともなったのです。

江戸時代初期の俵屋宗達による「蔦の細道図屏風」(相国寺蔵、重要文化財)には、金地に流麗な線で様式化された山と蔦の葉が描かれ、能書家として知られた烏丸光広の賛が書かれています。また、宗達の流れを汲む尾形光琳に師事した深江芦舟による同名の屏風(東京国立博物館蔵、重要文化財)には、紅葉した蔦の間で業平と従者、そして荷物を担いだ修行者が出会う『伊勢物語』の場面が描かれています。

蔦の細道

「蔦の細道」は、平安時代から室町時代後期まで使用された官道でした。宇津ノ谷入口バス停横の平橋から南側に折れて細道を上り、猫石、釣り鐘石、神平を越えて藤枝市岡部町坂下の鼻取り地蔵へ出るコースです。「蔦の細道」と呼ばれるようになったのは江戸時代からですが、『伊勢物語』に描かれて以降、名所として全国的にその名を知られていきました。

秀吉と陣羽織

宇津ノ谷集落の中ほどに「御羽織屋」と呼ばれる家があります。この屋号は豊臣秀吉から与えられた陣羽織が、この家に伝わることから付けられました。天正18(1590)年、豊臣秀吉が北条氏直らを攻める小田原征伐へ向かうときのことです。徳川家康の家臣、松平家忠の日記には「秀吉が宇津ノ谷に到着したとき、この処の郷民が勝栗と馬の沓を捧げて秀吉の小田原東征が縁起の良いことを告げると、秀吉は彼の志しを喜び自ら着用していた胴服(陣羽織)と黄金を与えた」とあります。「御羽織屋」には、この後にも徳川家康から拝領した茶碗などが伝わり、今でも拝観することができます。
(『東海道宇津ノ谷峠　道に咲いた文化』建設省静岡国道工事事務所、1993)

明治トンネル

宇津ノ谷集落からしばらく登って行くと明治トンネルとよばれるトンネルがあります。レンガ造で全長203m、明治37(1904)年に完成しました。アーチ形の入口上部には「宇津谷隧道」とプレートが掲げられ、内部まですべてレンガでつくられています。よく見るとレンガは下部と上部では色が違い、下部には硬く焼きしめられたレンガが使われています。ここには明治9(1876)年に最初のトンネルがつくられましたが、これが火災で崩落し、現在のトンネルはそれを修築したものです。トンネルの開通によって、昔から難所であった宇津ノ谷の交通事情は大きく変貌し、馬車や人力車が行き交いました。「明治宇津ノ谷隧道」は国の登録有形文化財となっています。

建築から見る宇津ノ谷

多くの東海道沿いの町や集落では、近代化とともに、昔の建物や景観が失われていきました。そうしたなかにあって宇津ノ谷集落は、旧東海道全体を通して見ても、江戸時代以来の町のつくりと建物が残った貴重な場所です。集落では昔ながらの景観を、かけがえのない資源ととらえ、これを保全、発展させることとしたのです。街道沿いの町のつくりは、そのまま保存されることになりました。一部の建物は建て変わりましたが、古い建物の改築や修理の際に昔ながらの工法や材料を奨めるなど、景観に統一感を持たせるよう努力がなされています。

1. 切妻屋根、平入の町家

2. 出桁造り

3. つし造り

歴史的環境をつくる

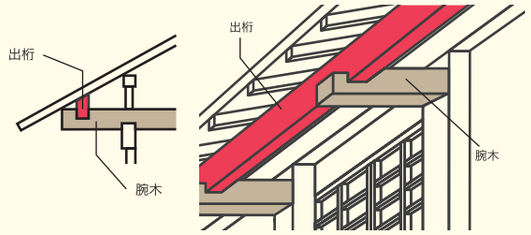
私たちが現在目にすることのできる宇津ノ谷集落の景観は、残された道や建物をもとにして、それを受け継ぎ、少しずつ手を加えながら維持されてきたものです。昔ながらの景観が持続するということは、いつの時代もそれを大切に思い、手をかけてきた人々がいるということです。宇津ノ谷集落では、道路や建物、外構の修景に加え、昔から各家で呼び習わされてきた屋号を看板のように掲げることで、かつての街道沿いの街並みを再現し、歴史的環境をつくりだしています。

1. 切妻屋根、平入の町家

宇津ノ谷集落で見られる伝統的な民家は道路と建物の間に空間がない町家です。江戸時代、街道沿いの民家は原則的にこの形式でした。屋根は頂部(棟)が一直線になる単純な山形の切妻造りです。入口は屋根が降りてきた下部に設けられ、これを平入りといいます。側面には屋根の形を示す三角形の面(妻面)が現れます。妻面に入口がある場合は妻入りといいますが、東海道の町家はほとんどが平入りでした。

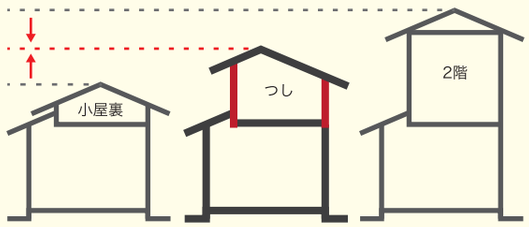
2. 出桁(だしげた)造り

出桁造りは軒を伸ばすためのしくみです。屋根裏や柱から腕木を出して、その先端に桁(けた)をのせて屋根を支えます。ガラス戸のない時代には障子に雨が当たっては困ります。土や板の壁に雨があたると建物も傷みます。夏の日差しを避けて快適な室内をつくるためにも、軒下を深く差し出したのです。出桁造りはせがい造りとも呼ばれますが、せがいは和船の両舷に渡した板のことで、軒を出した形が似ていることから、この名前がついたといわれています。



3. つし造り

つし造りはつし2階とも呼ばれ、屋根裏に部屋を設けたものです。江戸時代には本格的な2階建の建物を造ることは一般に許されず、平屋と同様の構造で屋根裏部屋をつくりました。外観は1階と2階の屋根の間に、つしの小さな窓が開きます。限られた空間を使うために、小屋組(屋根の骨組)は登り梁や曲がり梁を使い、棟通(屋根の頂部)を前にずらして道路側の壁を高くするなどの工夫をしています。



平屋(小屋裏使用)の家　つし造りの家　2階建ての家

4. 瓦

5. 下見板

4. 瓦

屋根の頂部の端っこや、軒先の角の瓦をよく見ると、「水」の文字が入っているものがあります。これは屋根の上に「水」が載っているということで、火除けのおまじないです。大半が木造の集落では、火事はとても怖い出来事です。建物から外につきだした屋根の先端は火がつきやすく、目にも触れやすいこの部分に「水」を載せることで、コミュニティの危機管理を促しています。瓦に見られる波の模様なども同じ意味合いをもっています。

5. 下見板

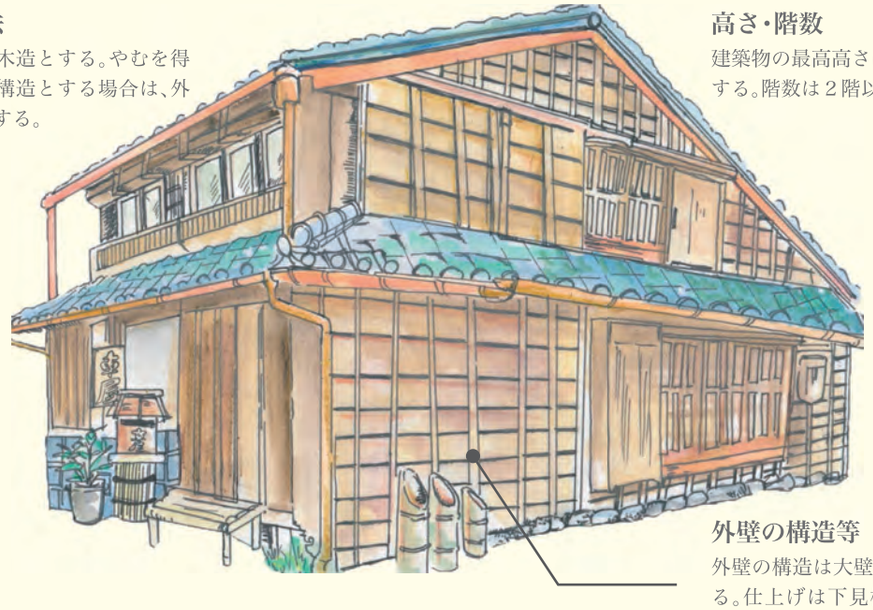
壁に張った板のことで、雨の流れを考えて上の板を下の板に重ねて張ります。宇津ノ谷集落で見られるのは、押縁(おしぶち)という縦棒で板を押さえる押縁下見板で、主に建物の側面(妻面)にあります。宇津ノ谷集落は景観計画重点地区として、下見板の外観を推奨し、統一感のある景観をつくり出しています。

伝統を守る「景観計画重点地区」

宇津ノ谷の建築物には、美しい景観を守る為の基準が定められています。この基準を守ることで、統一感のある景観が現在も保たれています。
下の表は宇津ノ谷の景観形成基準です。次ページにある絵と照らし合わせて見てみてください。

項目		形成基準
建築物の最高高さ		・建築物の最高高さは10m以下とする。
建築物の形態意匠	構造、構法	・主要構造は木造とする。やむを得ずその他の構造とする場合は、外観を和風とする。
	階数	・建築物の階数は２階以下とする。
	軒の高さ	・隣接する建築物の軒の高さと協調する。
	屋根・庇の形状、素材	・屋根は切妻を基本とし、寄棟又は入母屋による形状とする。 ・屋根の材料は日本瓦葺きを基本とし、庇、小屋根は、日本瓦葺き又は金属板葺きとする。 ・屋根は、いぶし、灰色又は黒色を基本とし、色相：５Ｙ Ｒ～5Ｙ、明度：6以下、彩度：１ 以下(無彩色を含む)の範囲の色彩とする。 ・庇、小屋根は、屋根と協調した色とする。
	外壁の構造等	・外壁の構造は大壁又は真壁とする。 ・外壁の仕上げは下見板張りを基本とし、漆喰壁、リシン壁、土壁、その他これらに類するものとする。 ・外壁の位置は、隣接する建築物と協調する。 ・外壁の基調色は、下見板張りの木地色やそれに類する茶色、こげ茶色を基本し、漆喰やリシン壁、土壁を用いる場合は、素材色を基本としたベージュや生成り色、白などを基本とする。色相：5YR~5Y、彩度：4以下(無彩色を含む)の範囲とする。但し、神社様式建築物はこの限りではない。
	玄関・開口部の建具	・木製の板戸又は格子戸とする。やむを得ず金属製とする場合は、こげ茶色、黒色又は木目調の仕上げとし、同色のルーバーや格子により修景する。
	建築設備等	・建築設備や空調機及び電気・ガスメーターは、道路から見えない位置に設置する。やむを得ない場合は、建物の外壁と調和した色彩、木製のルーバー、竹や植え込み等の緑化により修景する。
	樋の色彩	・樋の色彩は、こげ茶色、黒色又は銅板の素材色を基本とする。
	付属建築物 (車庫・物置、茶工場等)	・道路から直接望見できる場合は、次の各基準に適合すること。 ・屋根は、母屋の屋根の向き、勾配、色彩、軒や庇の高さと協調する。 ・外壁、開口部及び建具は、母屋と調和した仕上げ・素材とする。
	門・塀	・母屋と調和した土塀、板塀を基本とする。 ・門に屋根を設ける場合は、軒や庇と協調した高さとする。
工作物等の形態意匠	擁壁	・擁壁は、野面石積みとする。やむを得ず他の材料を活用するときは、化粧型枠などによる仕上げとする。
	自動販売機	・自動販売機は、建築物の中に組み込む、又は、建物の外壁と調和した色彩の木製のルーバー等で修景する。 ・やむを得ず屋外に設置する場合は、色を5Y7.5/1.5とする。
	郵便受・牛乳入等	・建物の外壁と調和した色彩や木製のルーバー等で修景する。
	緑化	・旧東海道沿いは、家の前や外壁に四季の花を植える(飾る)ように努める。 ・その他の区域で、前面道路に門や塀を設けない場合は、生け垣等による緑化に努める。

建築物の修景例

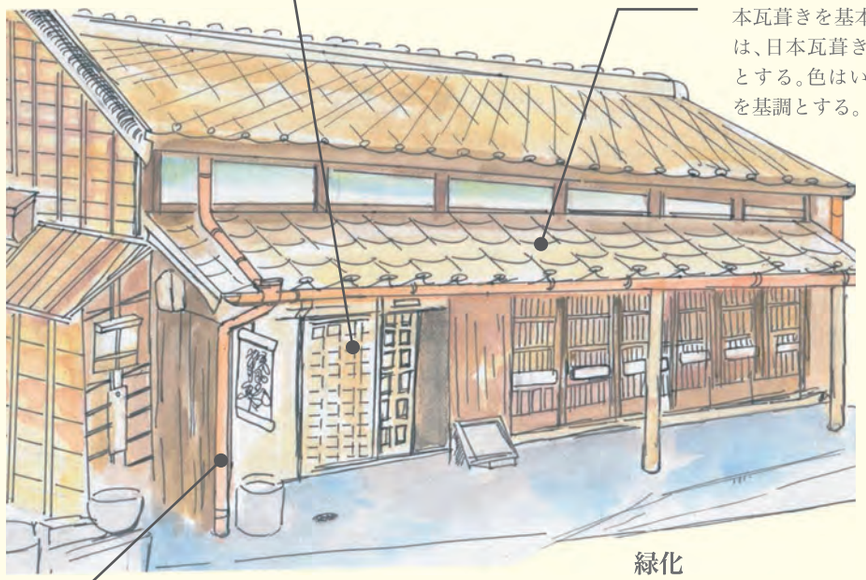


構造、構法
主要構造は木造とする。やむを得ずその他の構造とする場合は、外観を和風とする。

高さ・階数
建築物の最高高さは10m以下とする。階数は２階以下とする。

外壁の構造等
外壁の構造は大壁又は真壁とする。仕上げは下見板張りを基本とし、漆喰壁、リシン壁、土壁、その他類するものとする。

玄関・開口部の建具
木製の板戸又は格子戸とする。やむを得ず金属製とする場合は、こげ茶色、黒色又は木目調の仕上げとし、同色のルーバーや格子により修景する。



屋根・庇の形状、素材
切妻を基本とし、寄棟又は入母屋による形状とする。材料は日本瓦葺きを基本とし、庇、小屋根は、日本瓦葺き又は金属板葺きとする。色はいぶし・黒色・灰色を基調とする。

樋の色彩
樋の色彩は、こげ茶色、黒色又は銅板の素材色を基本とする。

緑化
旧東海道沿いは、家の前や外壁に四季の花を植える(飾る)ように努める。
・その他の区域で、前面道路に門や塀を設けない場合は、生け垣等による緑化に努める。

想いを支える「修景助成」

宇津ノ谷の景観を守るため、静岡市は数多くの建築物の助成事業※をしてきました。市と市民の協力で、かつての宇津ノ谷の姿保たれています。景観形成基準に沿ってどのような修景助成がなされているのか、一部を紹介します。

これまでの取り組み

平成元年	静岡市ふるさと活性化事業として 各戸に「屋号」の看板を設置
平成 8年	「カントリートレイル基本計画」策定
平成10年	「丸子路・歩くみちのまちづくり計画」策定
平成11年	カントリートレイル事業(国)により石畳をイメージした舗装整備
平成12年1月	「宇津ノ谷地区美しいまちづくり協議会」設立(協議会会員44名)
平成12~14年度	「協議会の活動に市が助成」
平成13年4月	「美しいまちづくり整備計画」の策定 「美しいまちづくり協定」の締結
平成13年11月	景観条例に基づき、宇津ノ谷地区を「美しいまちづくり推進地区」に指定
平成14年度~	景観形成行為への助成
平成20年度	景観計画重点地区に指定

実際に行った助成行為※の一部

※建築物や塀などを、地区の基準に適合するように改築・改修しています。
道路や山から見える部分の工事について、限度額を定め、その費用の一部を助成しています。

建築物修景：庇葺替え、外壁張替え工事
丸子屋
(平成23年度施行)

施工前

施工後

建築物修景：新築工事
今昔
(平成25年度施行)

施工前

施工後

建築物・外構修景：外壁改修、板塀設置工事
橋場
(平成27年度施行)

施工前

施工後

美しい景観を保つ、宇津ノ谷の事業

カントリートレイル事業による石畳をイメージした舗装整備や「宇津ノ谷地区美しいまちづくり協議会」の設立など、景観への意識が高い宇津ノ谷。景観まちづくりの先進地として数々の受賞歴があります。

カントリートレイル事業による道路整備(石畳風石板塗装、側溝整備)

石畳風石板塗装、
側溝整備

施工前

施工後

施工前

施工後

受賞歴

昭和63年	静岡県まちなみ五十選 選定
平成4 年	第一回しずおか市民景観大賞「優秀賞」受賞
平成11年	静岡圏都市景観賞 「優秀賞」受賞
平成13年	宇津ノ谷地区を「美しいまちづくり推進地区」に指定
平成14年～	景観形成行為への助成行為への助成制度開始
平成17年	都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」受賞
平成17年	「美しい日本の歩きたくなるみ」五百選 選定
平成19年	中部の未来想像大賞「優秀賞」受賞
平成20年	景観計画策定に伴い、「景観計画重点地区」に移行
平成22年	国史跡に指定(東海道宇津ノ谷峠越)

受け継がれてきた伝統と宇津ノ谷の味を知るお祭り

七夕祭り

7月初旬から約1週間にわたり、各家の入口に綺麗な七夕飾りが飾られます。とても風情が感じられます。
(7月初旬開催)

味覚祭り

御羽織屋横の空き地にて開催されます。とろろ汁といった地元の食材が販売されます。
〈飲食スペース有〉(11月中旬開催)

延命地蔵縁日

慶龍寺で開かれる延命地蔵縁日では、供養を行っています。厄除けのお守りとして、名物十団子の販売もあり地元の人で賑わいます。(8月下旬開催)

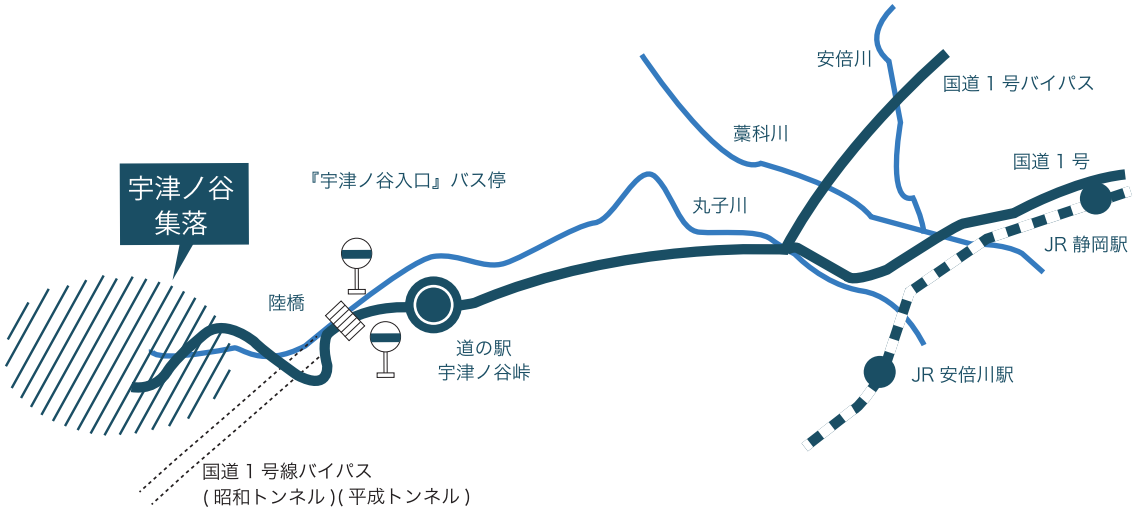
歴史の道ウォーク

岡部宿から宇津ノ谷峠まで東海道史跡をガイドと共にめぐるウォーキングイベントです。
(11月中旬開催)

十団子

厄除けのお守りとして、民家の軒先に吊るされています。
厄除けの十団子は、固く食べることはできませんが、延命地蔵縁日では、食べられる十団子を販売しています。

宇津ノ谷へ行ってみよう



車をご利用の場合

《静岡市街地から》
国道１号線を西進、「道の駅　宇津ノ谷」を過ぎた所 (トンネル手前) を左折してください。陸橋を渡ると宇津ノ谷の集落に入ります。

《藤枝市岡部町方面から》
国道１号線、宇津ノ谷トンネルを抜けた直後に左折すると、宇津ノ谷の下の集落となります。直進して突き当たりを右折すると上の集落入口となります。岡部町からは県道を通ると大正トンネルを抜けて宇津ノ谷の集落に入ります。緑に包まれた道で趣があります。

バスをご利用の場合

《静岡市街地から》
中部国道線
岡部経由藤枝駅前行き「宇津ノ谷入口」下車
→徒歩５分 (陸橋を渡ってください)

《藤枝市方面から》
中部国道線　新静岡行き「宇津ノ谷入口」下車
→徒歩５分
又は「坂下」下車
→明治トンネルを経由し、宇津ノ谷集落へ
徒歩 20 分

発 行 元 ：宇津ノ谷地区美しいまちづくり協議会
静岡市都市局建築部建築総務課
製作協力：常葉大学造形学部 安武研究室・未来デザイン研究会
監　　修：常葉大学造形学部 土屋和男
発行年月：2016 年３月